新聞　第3種郵便物認可　朝日新聞（平成28年12月24日）

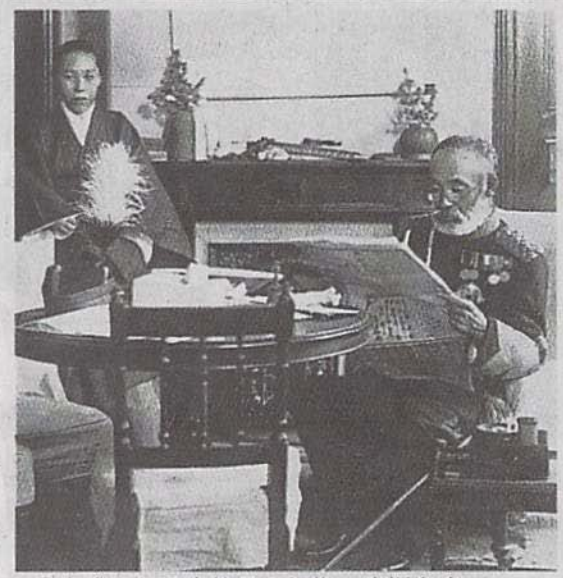
乃木大将夫人像 70年ぶり再建

鹿児島の市民団体 静子小伝も発刊

明治期の陸軍大将・乃木希典（まれすけ）の妻、静子（しずこ）（1859～1912）の銅像が、鹿児島市新屋敷町の甲突川左岸の公園に、約70年ぶりに再建された。静子の生涯をまとめた本「乃木静子夫人小伝」も発刊された。いずれも、静子を顕彰しようと、鹿児島市の市民団体が寄付を募り、企画した。

乃木静子は薩摩藩医の娘で、同市新屋敷町に生まれた。1878年に希典（1849～1912）と結婚。長男と次男は日露戦争で戦死した。1912年の明治天皇大喪の折、希典とともに殉死した。希典や義母に尽くしたことや質素な生活ぶりなどから、当時、良妻賢母とたたえられた。

最初の銅像は、静子の遺徳をしのぶ旧薩摩藩士らが19年、今回の建立場所と同じ場所に建立。しかし、太平洋戦争末期に軍事資材として供出され、台座のみが残っていた。



上 完成した乃木静子の銅像＝鹿児島市
下 乃木希典と静子＝乃木静子夫人奉賛会提供

市内の経済界や神職らが2012年、静子の没後100年顕彰祭を開催したのを機に、銅像再建を求める声が上がった。14年に市民団体「乃木静子夫人奉賛会」（平瀬葉子会長、約30人）が結成され、これまで県内外から総額約1千万円の寄付が寄せられた。

完成した銅像は、高さ90センチの和装の座像で、台座を含め高さ2・1メートル。前回の像の写真などを参考にしたが、ほおをふっくらとして女性らしくした。台座正面の「乃木静子」という字は、本人の肉筆を再現した。

誕生日である11月27日にあった除幕式では、三反園訓知事ら約300人が出席。同会では今後も寄付を受け付けるほか、銅像の管理保全や顕彰活動にも力を入れるという。

一方、「乃木静子夫人小伝」（A5判、91ページ）は同会の依頼を受けた尚古集成館の田村省三館長が執筆した。勉強熱心だった学生時代のほか、乃木との新婚生活、戦死した息子への思いなどが、当時の資料や写真をもとに解説されている。

平瀬会長は「殉死をたたえるわけではないが、明治という時代に懸命に生きた女性がいたということを知ってもらいたい」と話す。

2千部を発行し、1冊1千円で鹿児島市の船魂神社などで販売する。「乃木静子夫人小伝」の入手希望や同会への寄付などは、同会事務局の船魂神社（099・226・7457）へ。（林国広）